

国際ミツバチ研究協会



雑誌紹介

Apicultural Abstracts 47 巻 4 号 (1996) には文献番号 1156/96~1527/96 間で、362 編が収録されており、うち日本からは 10 編の論文が掲載されている。

Bee World 77 巻 4 号 (1996) には、4 編の論文が寄せられている。

Burgett は養蜂発展のための国際的援助について述べている。養蜂の発展のためにこの雑誌で資金援助の呼びかけを最初に行ったのが Burgett である。ここ 10 年来、養蜂産業への国際的援助は多く行われてきており、資金面でも官民を問わず、さまざまな方面からの援助がある。しかし、援助プログラムはそれぞれが独立して行われており、またそのプログラムの成果について総合的に判断する機会がほとんどないと筆者は述べている。プログラム終了後にそれぞれのケースから得られた知見を生かして今後の援助が行われていくことが望まれる、と筆者はまとめている。

今世紀のイギリスにおける養蜂の第一人者で、1996 年 9 月 1 日に逝去した Brother Adam Kehrle に Crane 博士が弔辞を捧げている (今号の表紙は彼の生前の写真である)。Brother Adam は 1889 年に生まれ、1910 年イギリスに渡り、セントメアリー寺院の養蜂場で、ミツバチの育種と養蜂を精力的に行った。彼は着任当時に猛威を振ったアカリンドニの対策として、ダニに強い系統の育種を行い、Buck fast という系統を作製、増殖して、その女王蜂を他国へも分配するなど世界の養蜂の発展に貢献した。

Journal of Apicultural Research 35 巻 2 号 (1996) には 4 編の論文が掲載されている。

Lodesani et al. は *Apis mellifera ligustica* のコロニーに内で、傷ついて落下した *Varroa jacobsoni* を調査、分類することにより、ダメージの原因と、それらがダニ自身やダニの繁殖能力に与えた影響についての考察を行っている。コロニーにフロアボードトラップとゲイリートラップを仕掛け、それぞれにとラップされたダニに与えられていたダメージを分類、定量した。そしてそれらの結果と、成虫についていたダニについていたダメージとを比較することによって、蜂群がダニにダメージを与える能力、およびダニを運び出し防除する能力を測ることができることを示した。

Vit and Pulcini は東部と南部のヴェネズエラにいるハリナシバチのハチミツ中のジアスターゼとインベルターゼの活性について調査した。27 種のハリナシバチのジアスターゼとインベルターゼの活性を調べたところ、オオハリナシバチとニオイハリナシバチのジアスターゼ活性は大変低く、それに対しこれ以外のハリナシバチのジアスターゼ活性は高い値を示した。またインベルターゼの活性数値はばらつきがあり、統計的に両族間で活性に有意な差はなかった。ミツバチのハチミツでは、その新鮮さを調べるのにジアスターゼの活性を指標にしているが、ハリナシバチではその値が大きくばらつくため新鮮さの指標には別のものを探さなくてはならないことが示された。

Albert et al. はローヤルゼリーのタンパク RJP57-1 の cDNA のシーケンスを訂正、再報告している。このタンパクのシーケンスは 1994 年に一度報告されているが、カルボキシル末端 (C 末端) に反復配列が含まれているため、当時はその部分を正しく判読することができていなかった。今回はこのタンパクの機能について、この配列から予想される高次構造から推測している。

(大成 ゆり子)